

# 第1章 現況と課題

- 1-1 本市の主な特性と問題点
- 1-2 市民・事業者などの意向
- 1-3 上位関連計画などによる都市づくりの方向性
- 1-4 都市づくりの主要課題



# 第1章 現況と課題

## 1-1 本市の主な特性と問題点

### 1-1-1 位置・地勢と歴史的変遷

#### (1) 位置・地勢

本市は、愛知県のほぼ中央に位置しています。

市域は、東西 29.1km、南北 20.2km、面積 387.2 km<sup>2</sup>と県内3番目の規模を有しており、北は豊田市、東は新城市、西は安城市、西尾市、南は幸田町、蒲郡市、豊川市に隣接しています。

J R東海道本線や名鉄名古屋本線などの鉄道、東名高速道路や新東名高速道路、国道1号などの主要な幹線道路が走っており、広域的な交通利便性に優れています。

岡崎市の位置



## (2) 気象

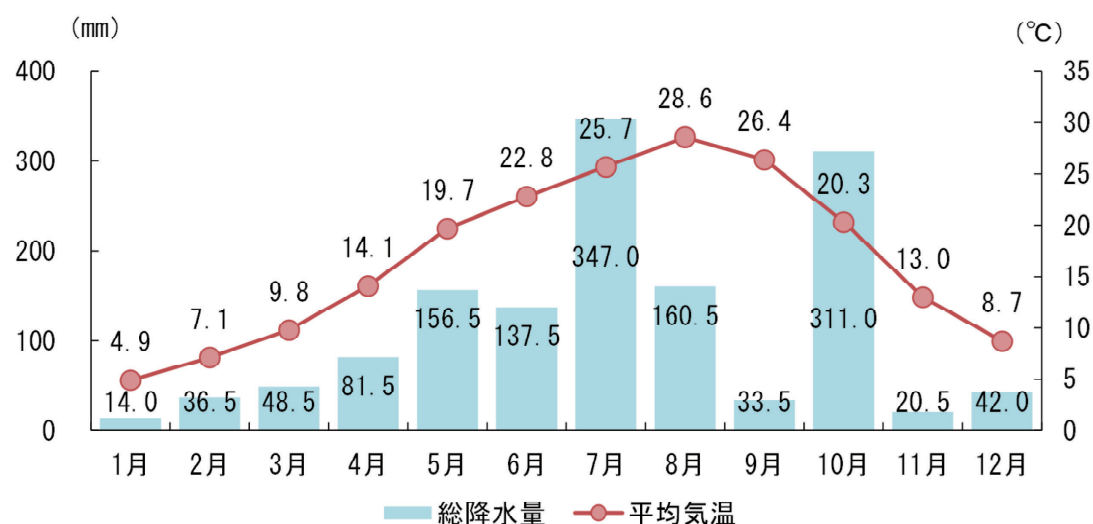
気候は、山間部では平野部と比較するとやや低温多雨であるものの、年間平均気温は 15℃～17℃で、四季を通じて温暖な太平洋岸式気候に属します。年間降水量は 1,300mm～1,600mm 程度で、夏は多く冬は少なく、降雪もほとんどありません。

年間平均気温、平均湿度、降水量の推移

|           | 2015<br>(H27) | 2016<br>(H28) | 2017<br>(H29) | 2018<br>(H30) | 2019<br>(R1) |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 平均気温 (℃)  | 16.4          | 16.8          | 15.8          | 16.7          | 16.8         |
| 平均湿度 (%)  | 68.0          | 65.6          | 64.1          | 65.7          | 66.0         |
| 総降水量 (mm) | 1,353.0       | 1,301.0       | 1,290.5       | 1,602.5       | 1,389.0      |

資料：岡崎市消防本部（令和元年）

2019（令和元）年の月間平均気温、総降水量



資料：岡崎市消防本部（令和元年）

## (3) 市域の変遷と歴史

### ① 江戸期以前

比較的温暖な気候と清流に恵まれ、丘陵地に旧石器時代から人々が住み始めたことが数多くの遺跡や出土品で明らかになっています。7世紀後半には、市北西部の矢作川右岸台地に大寺が建立され、中世になると、鎌倉街道矢作東宿や総持尼寺の門前町として次第に集落が整いました。岡崎が飛躍的に発展したのは、1524（大永4）年の松平清康の入城の頃といわれています。

江戸時代には、代々徳川譜代の大名が城主となった岡崎城の城下町として、また、東海道五十三次の宿場町や多くの寺院の門前町として発展してきました。



② 明治・大正期

1889（明治22）年に町村制施行により岡崎町が誕生し、この頃から水力（水車）による綿紡績（ガラ紡）が盛んになり、男川村（現在の大平町）には官営紡績所が設置されるなど、岡崎の産業革命時代として大いに繁栄しました。

その後、1906（明治39）年に三島村、乙見村の一部（大字稲熊、大字小呂）と、1914（大正3）年に広幡町と順次合併し、1916（大正5）年7月1日に面積19.68 km<sup>2</sup>、人口37,639人で市制を施行しました。

③ 昭和・平成期

1928（昭和3）年に岡崎村、美合村、男川村、常磐村の一部（大字箱柳）と合併し、西三河の教育、文化、金融、産業、交通の中心地として発展を続けました。

1945（昭和20）年7月に、戦災により一夜で市街地の大半を焼失するかつてない大被害を受けましたが、焦土の中から鋭意復興に努め近代都市岡崎に生まれ変わりました。

市域も、1955（昭和30）年に福岡町、矢作町、岩津町、常磐村、河合村、藤川村、竜谷村、山中村、本宿村9町村を、1962（昭和37）年に六ツ美町を合併し、面積は226.97 km<sup>2</sup>（平成元年全国都道府県調査による）となり市制施行当時の11倍の広さになりました。

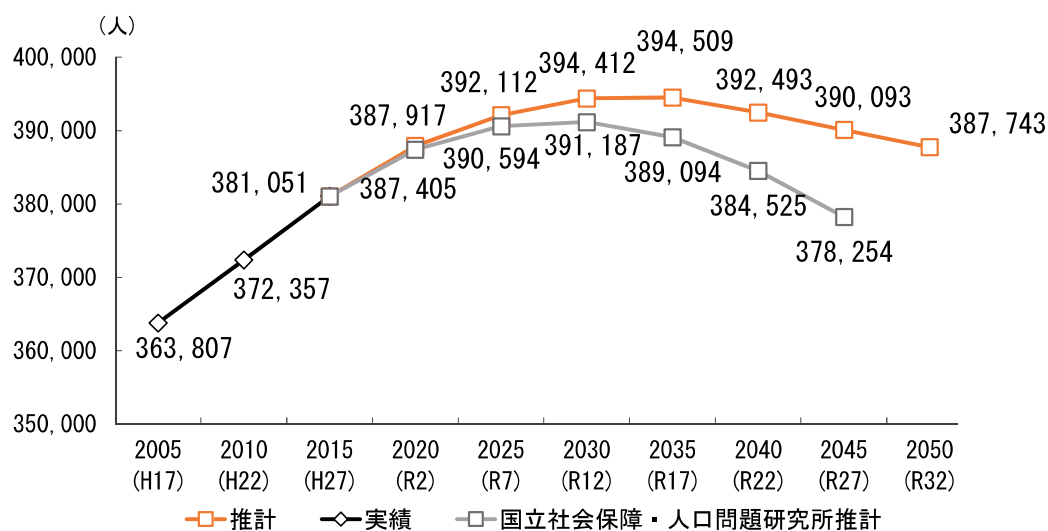
2003（平成15）年4月に中核市へ移行し、2006（平成18）年1月に額田町と合併して、現在では面積387.2 km<sup>2</sup>（平成27年全国都道府県調査による）、人口38万人を擁する都市となっています。

## 1-1-2 人口

## (1) 人口の推移

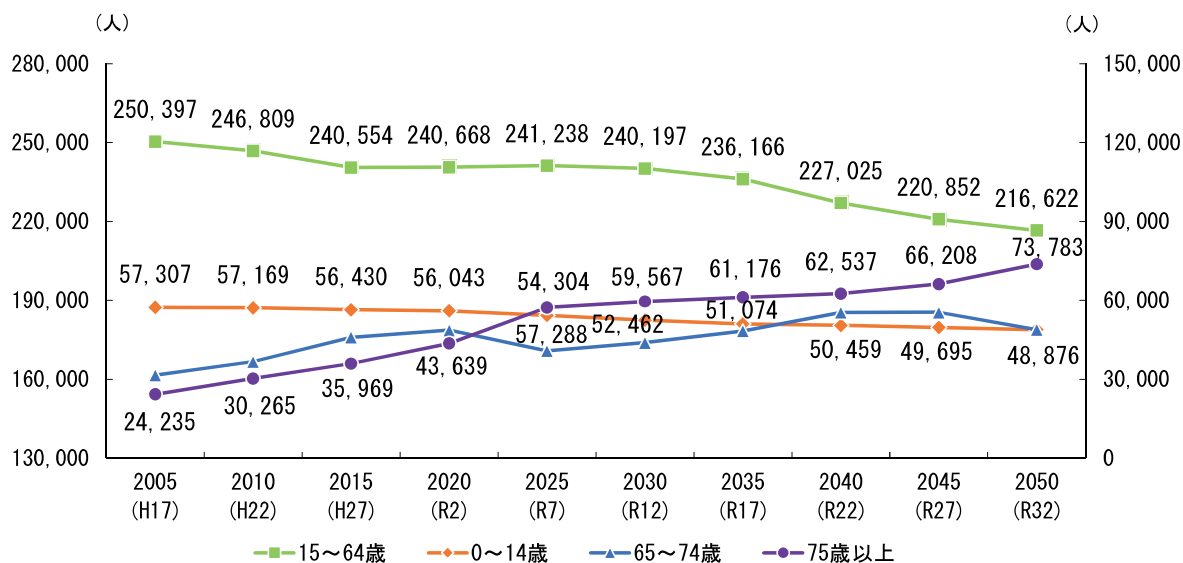
人口推計では、2015（平成 27）年時点の 381,051 人から目標年度の 2030（令和 12）年で 394,412 人に増加し、2035（令和 17）年にピークを向かえます。今後、年少人口と生産年齢人口が減少し高齢化が進行する見込みです。世帯数は増加を続けており、外国人人口は 2015（平成 27）年以降再び増加傾向にあります。

第7次岡崎市総合計画における人口推計（総人口）



資料：第7次岡崎市総合計画検討資料（令和元年）

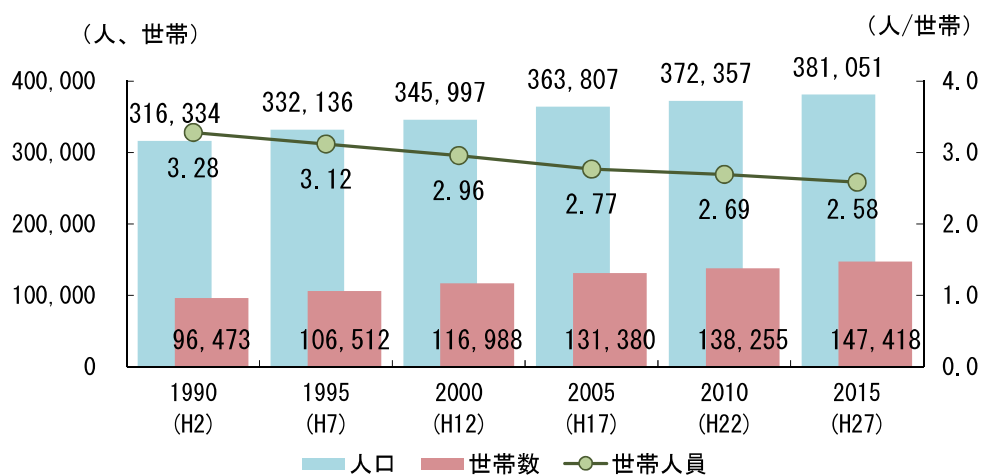
第7次岡崎市総合計画における人口推計（年齢4階級別の推計結果）



(注) 右軸：15～64歳、左軸：0～14歳、65歳～74歳、75歳以上

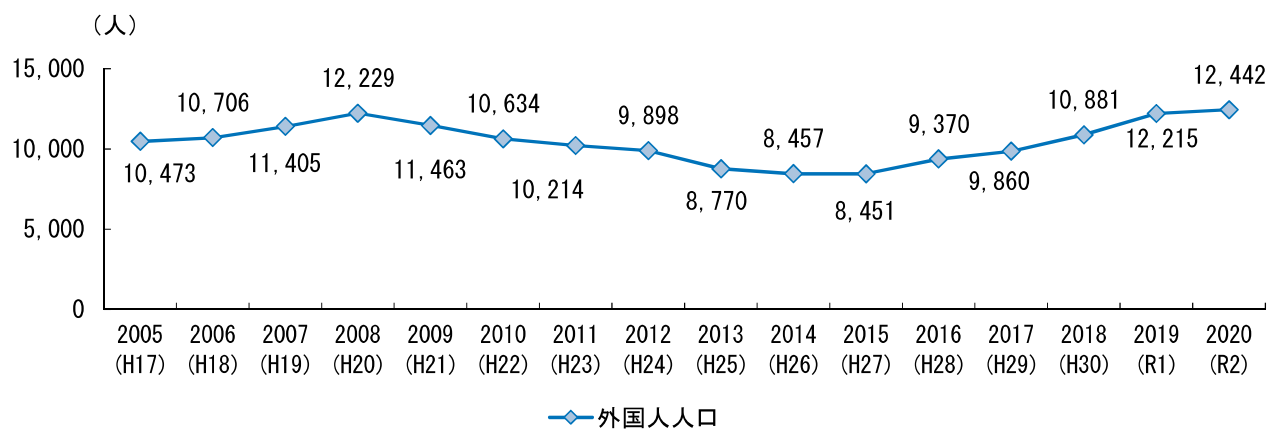
資料：第7次岡崎市総合計画検討資料（令和元年）

## 世帯数の推移



資料：国勢調査（平成27年）

## 外国人人口の推移

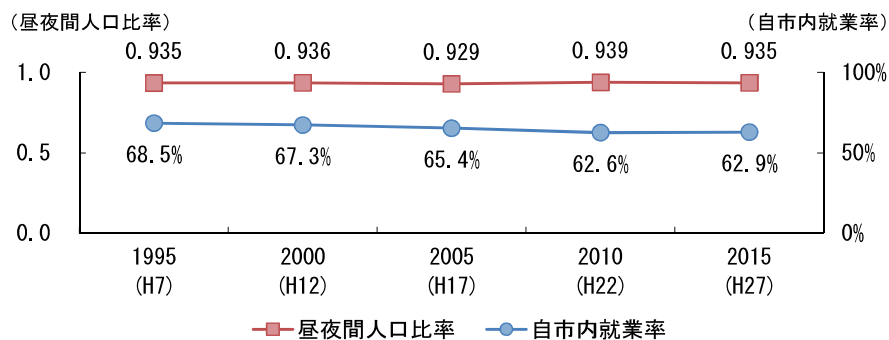


資料：住民基本台帳（令和2年）

## (2) 昼夜間人口比率

1日の中で昼間と夜間の人口を比較した昼夜間人口比率は1を下回っており、また、自市内の就業率は近年緩やかに低下していることから、市民の多くが市外へ就労していることが考えられます。

昼夜間人口比率と市内就業率

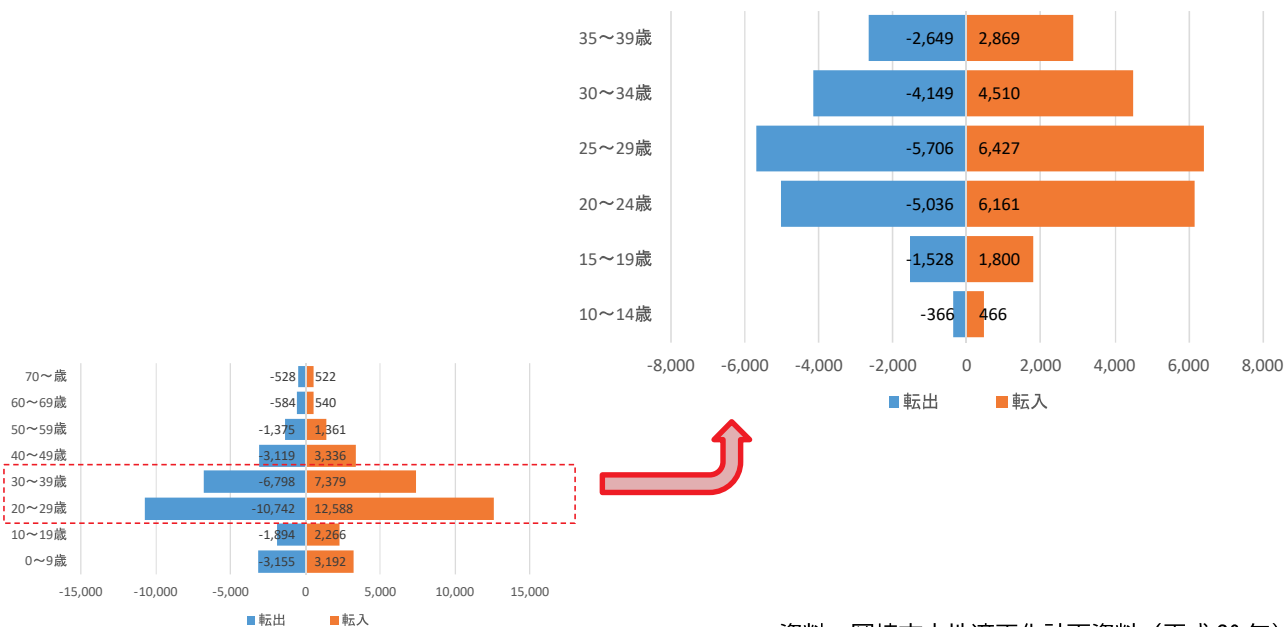


資料：国勢調査（平成27年）

## (3) 転入出

市街化区域※への転入出は10代～30代で特に転入超過となっており、これらの中でも10代～30代を詳しくみると、20～24歳、25～29歳、30～34歳で特に転入超過の傾向があります。このことから就職や結婚などのタイミングで転入してきていることが考えられます。

市街化区域における年代別転入出人口

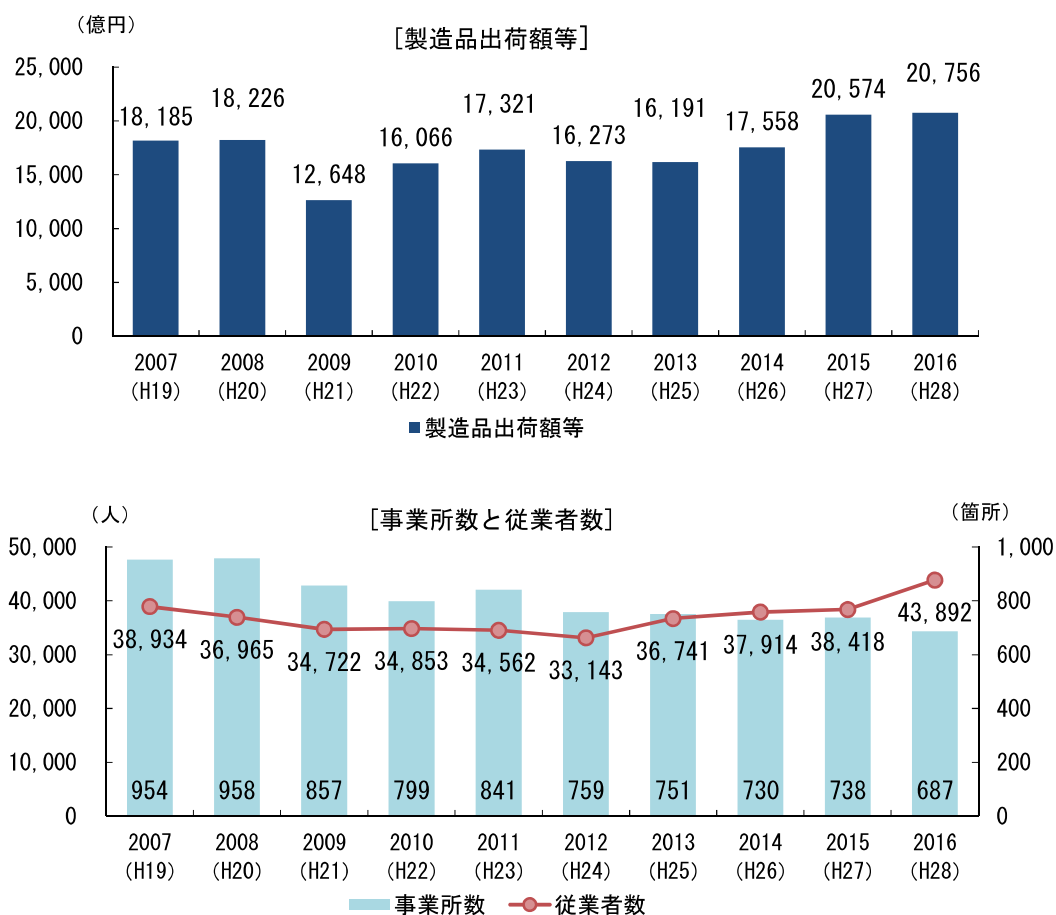


資料：岡崎市立地適正化計画資料（平成30年）

## 1-1-3 産業

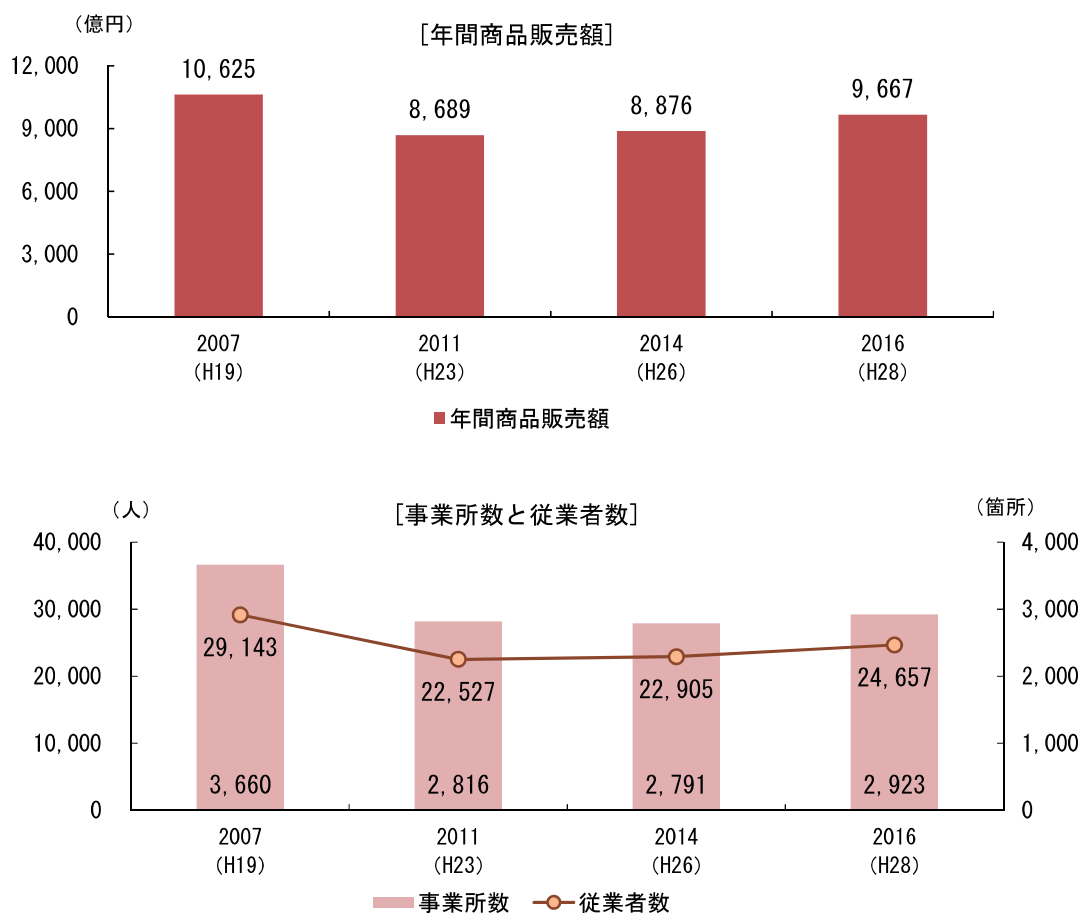
市内の産業について、工業や商業、農業に関してそれぞれ整理します。工業では製造品出荷額等は堅調に増加しており、商業でも商品販売額が増加しています。しかし、西三河地域のなかでは、豊田市や刈谷市、みよし市、幸田町などに比べやや低い増加率となっています。

## 工業の推移



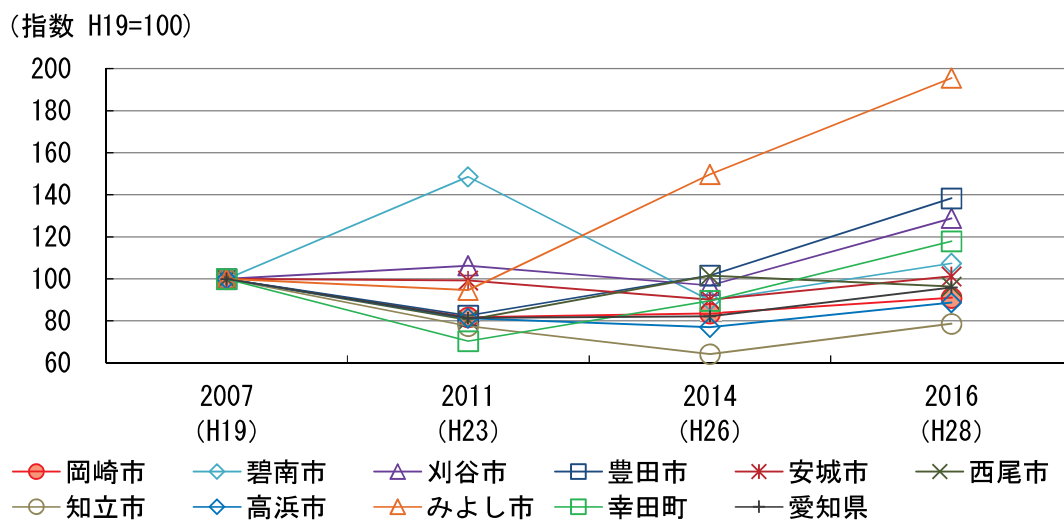
資料：経済センサス活動調査（平成 23、27 年）、工業統計調査（平成 28 年）

### 商業の推移



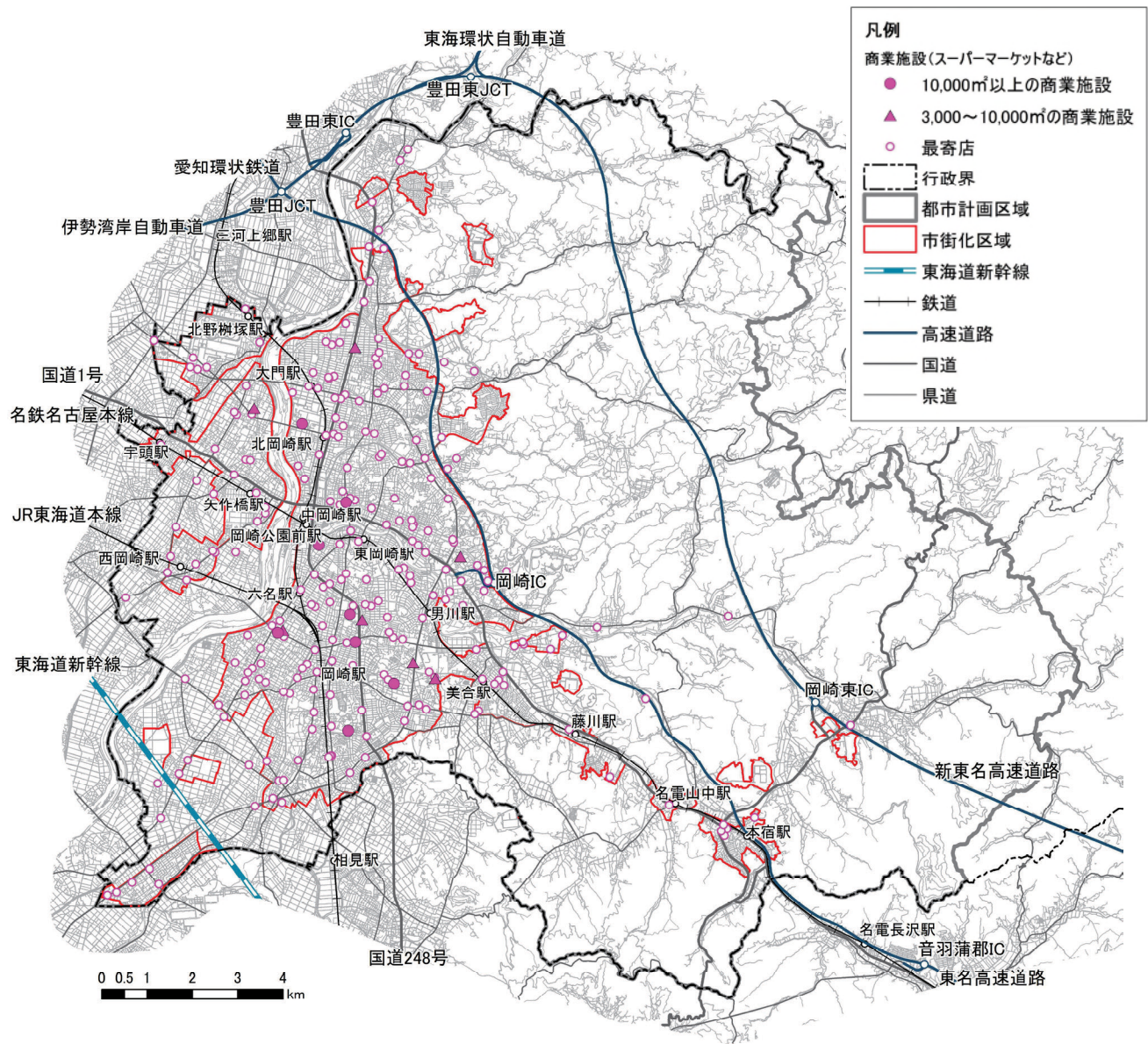
資料：経済センサス活動調査（平成 23、28 年）、商業統計調査（平成 26 年）

### 年間商品販売額の推移（西三河地域の市町、愛知県との比較）



資料：経済センサス活動調査（平成 23、28 年）、商業統計調査（平成 26 年）

商業施設の分布

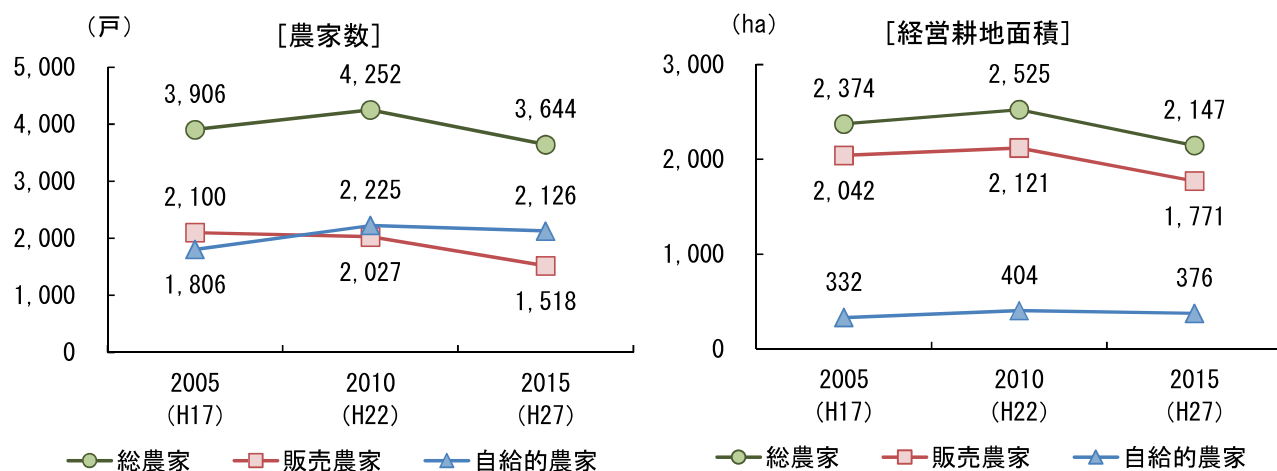


資料：大型小売店総覧、iタウンページ（平成30年度）

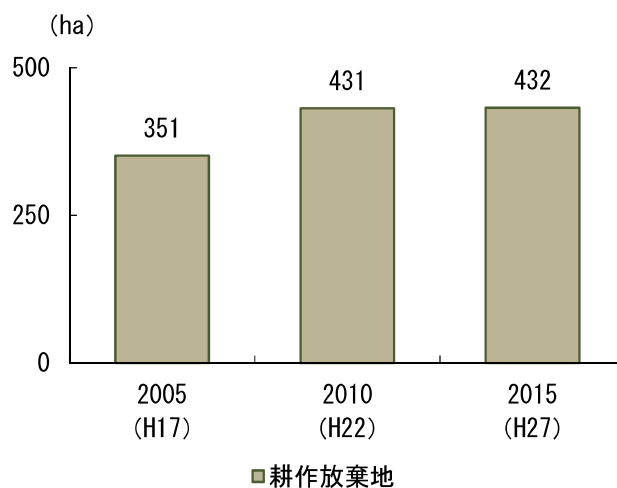


農業では、農家数や経営耕地面積が減少し、耕作放棄地が増加しています。

農家数、経営耕地面積の推移



耕作放棄地の推移



資料：農林業センサス（平成27年）

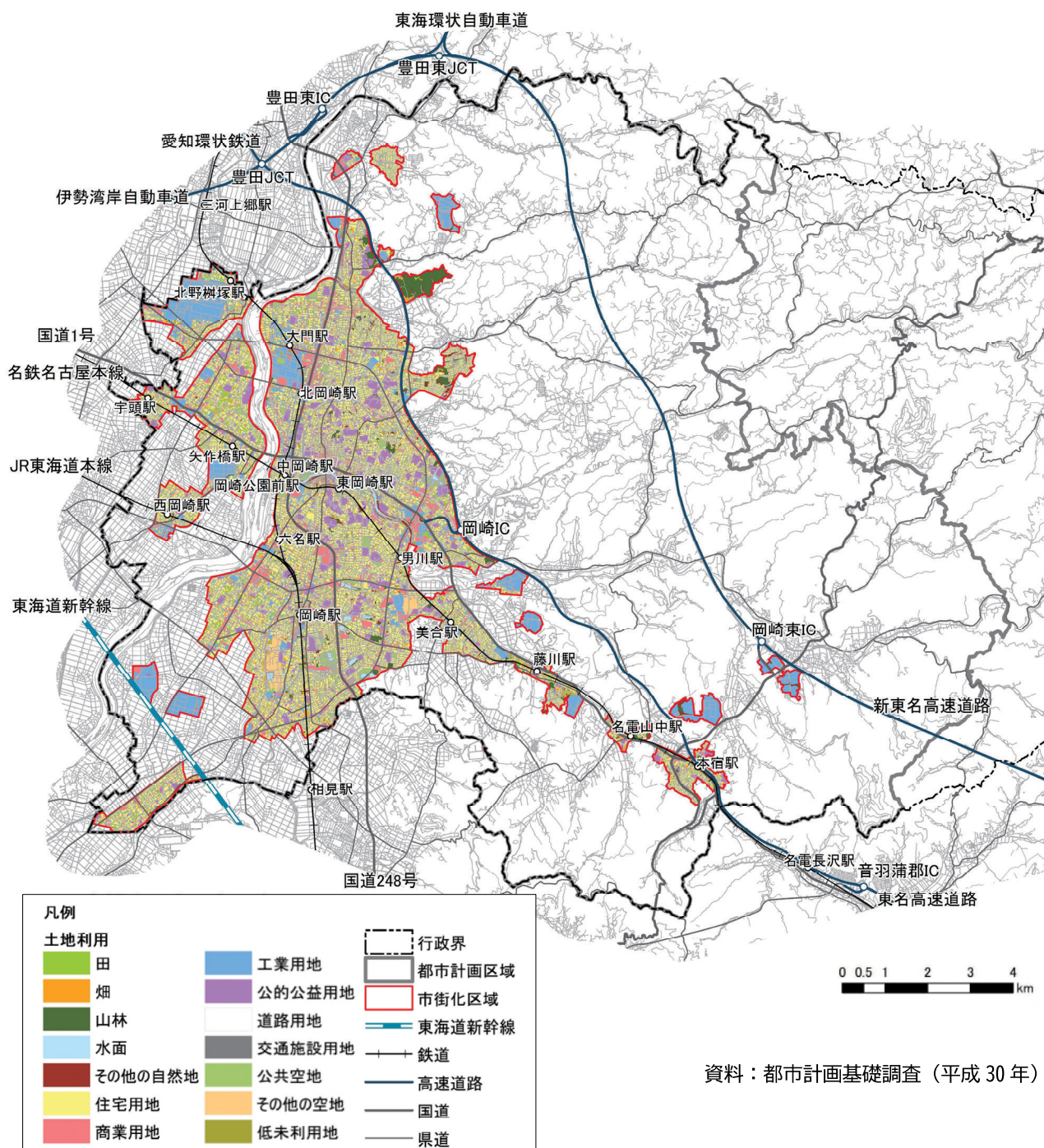


## 1-1-4 土地利用※・自然環境

市内の土地利用・自然環境に関しては、都市計画基礎調査により整理します。

東名高速道路を挟んで西側が市街地エリア、東側が丘陵地・里山エリア、更に新東名高速道路から東側は都市計画区域※外の山地を中心とした土地利用となっています。市街化区域※では都市的土地利用が約9割を占め成熟した市街地を形成しており、工業系の用途地域※では住宅地や工業地の土地利用の混在がみられます。市街化区域の外縁部に自然的土地利用※や低未利用地※が残っており、また東部の丘陵地や山地では自然環境が残っています。

土地利用現況

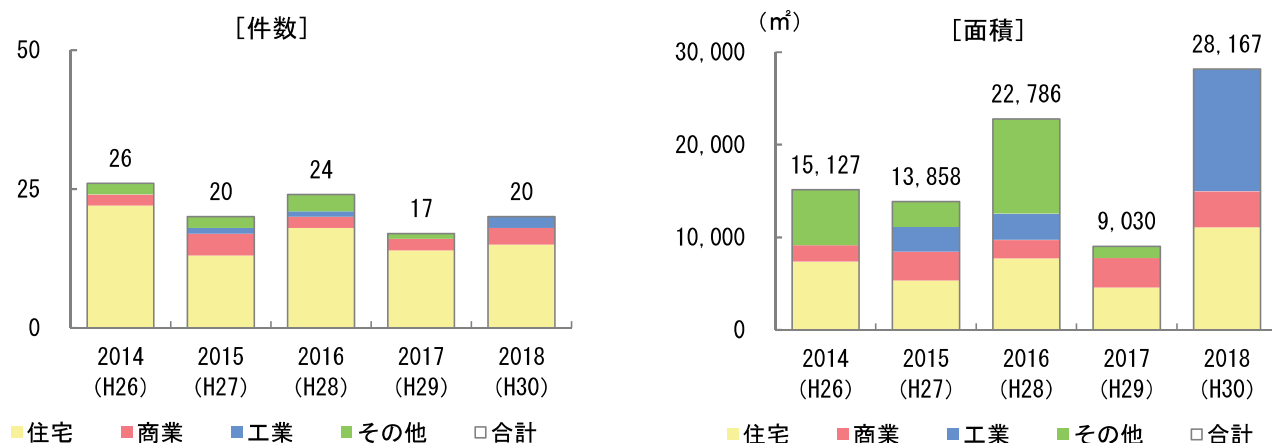


## 1-1-5 市街化動向

市街化動向は、市街化調整区域※における開発許可の件数と空き家数の推移により整理します。

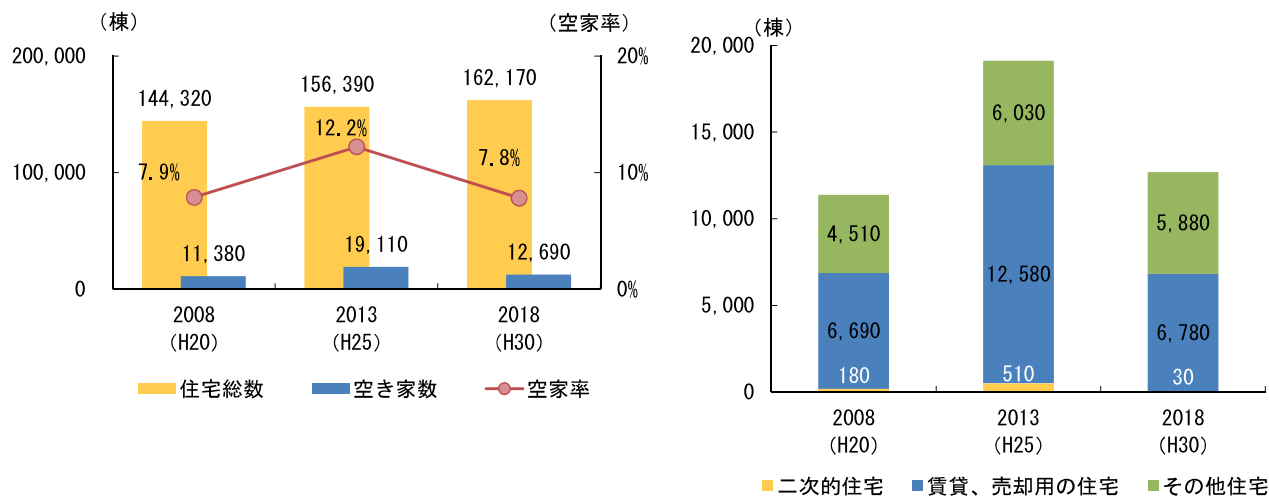
開発許可件数の推移から市街化調整区域での開発が一定程度あることがわかります。また空き家数の推移から、空き家のうち、賃貸・売却用の住宅などを除いた、特定の目的を持たない「その他の住宅」もここ10年間で一定程度あることが確認でき、その利活用の促進を図る必要があります。

市街化調整区域の開発許可件数の推移



資料：都市計画基礎調査（令和元年）

空き家数の推移



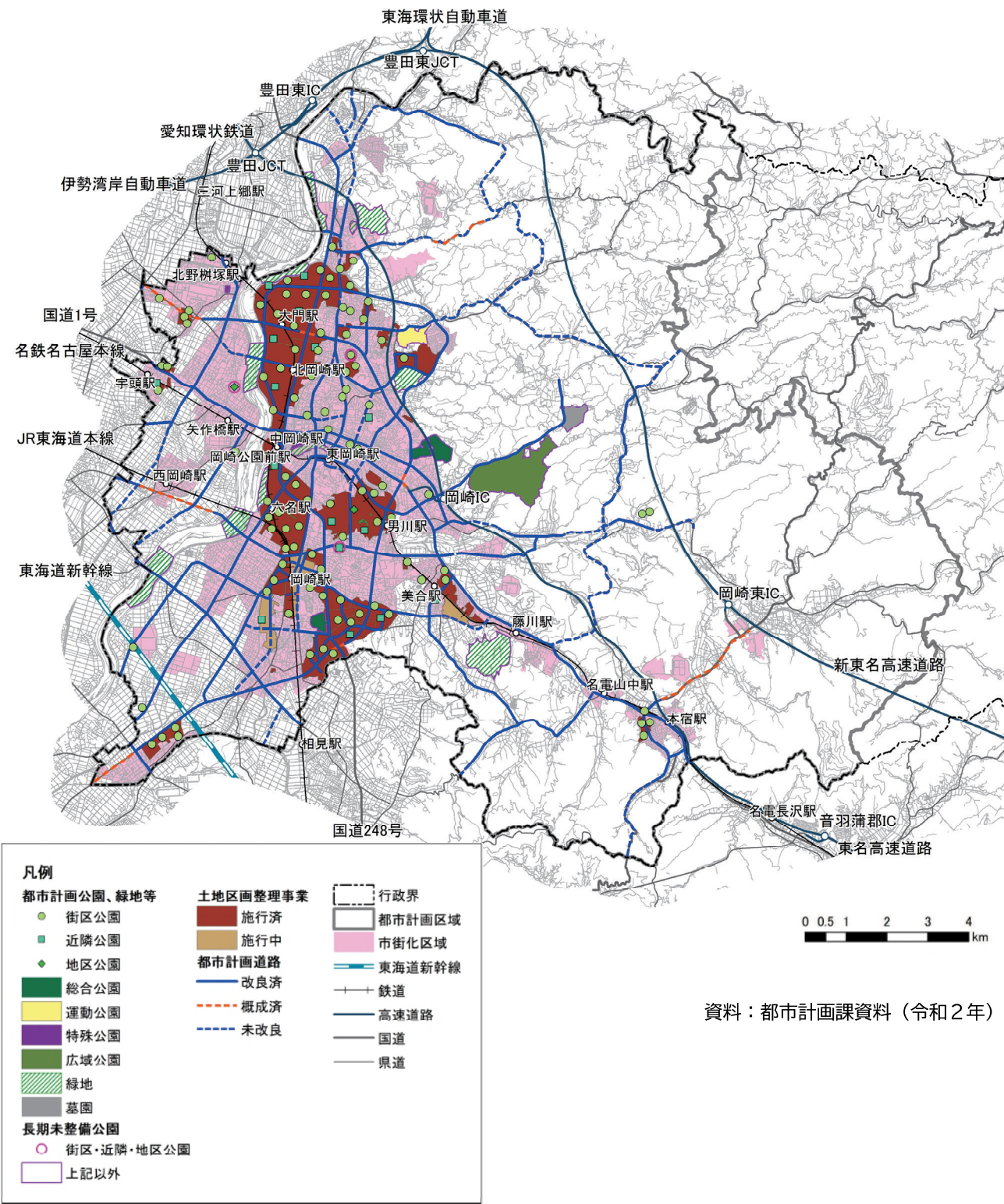
資料：住宅・土地統計調査（平成30年）



1-1-6 基盤整備状況

基盤整備の状況は、市街化区域※の約3割が土地区画整理事業※（令和2年7月時点）により面的に整備され、都市計画道路※の改良率は約79%（令和2年3月時点）となっています。一方で未整備区域がある長期未整備公園は、20箇所（令和元年12月時点）となっています。

基盤整備の状況



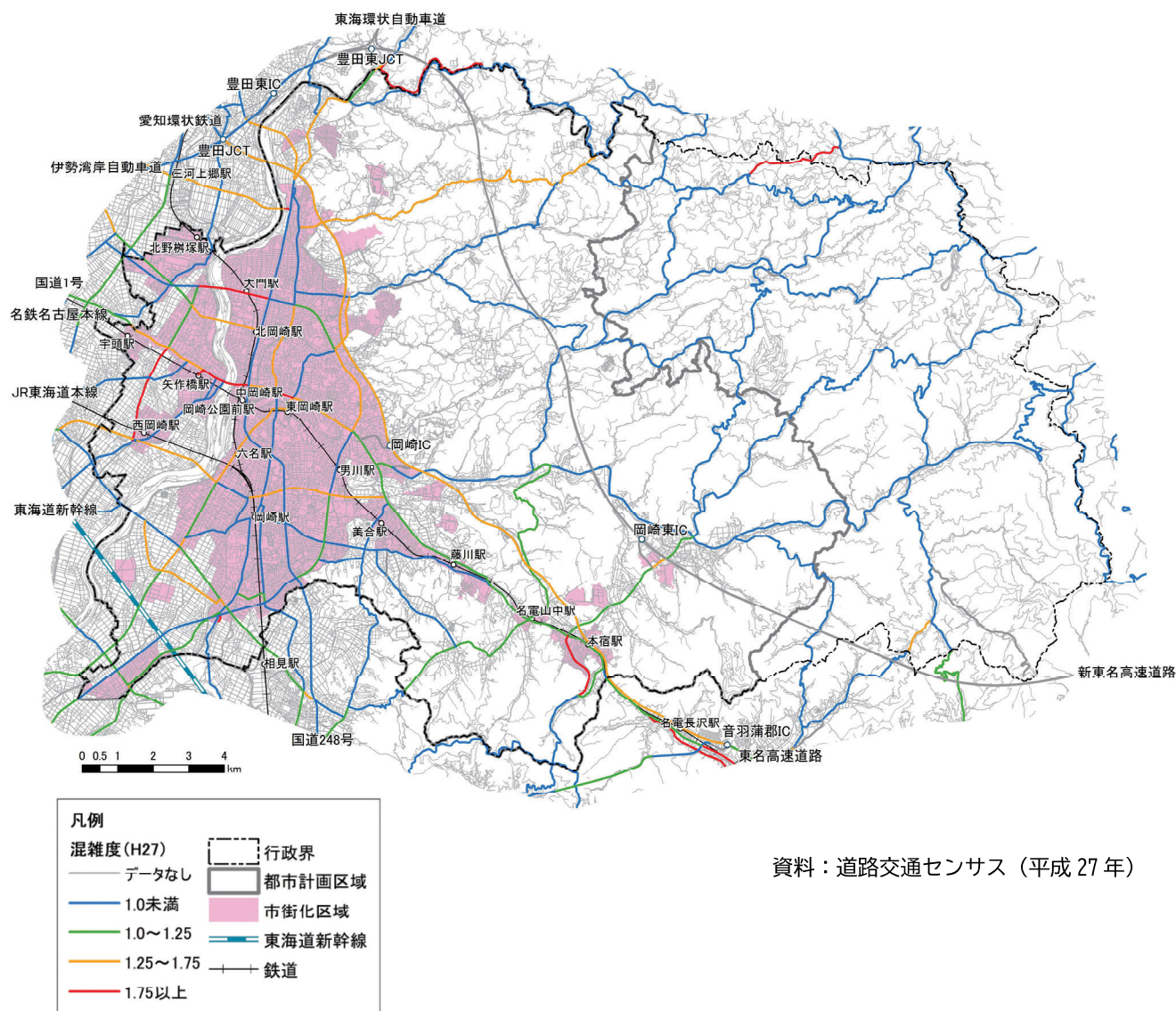


## 1-1-7 道路・公共交通

道路・公共交通に関しては、市街地内で交通量が多く混雑している箇所があります。市街化区域※の大部分は鉄道もしくはバスの利用圏であり、人口における公共交通のカバー率は約85%となっています。

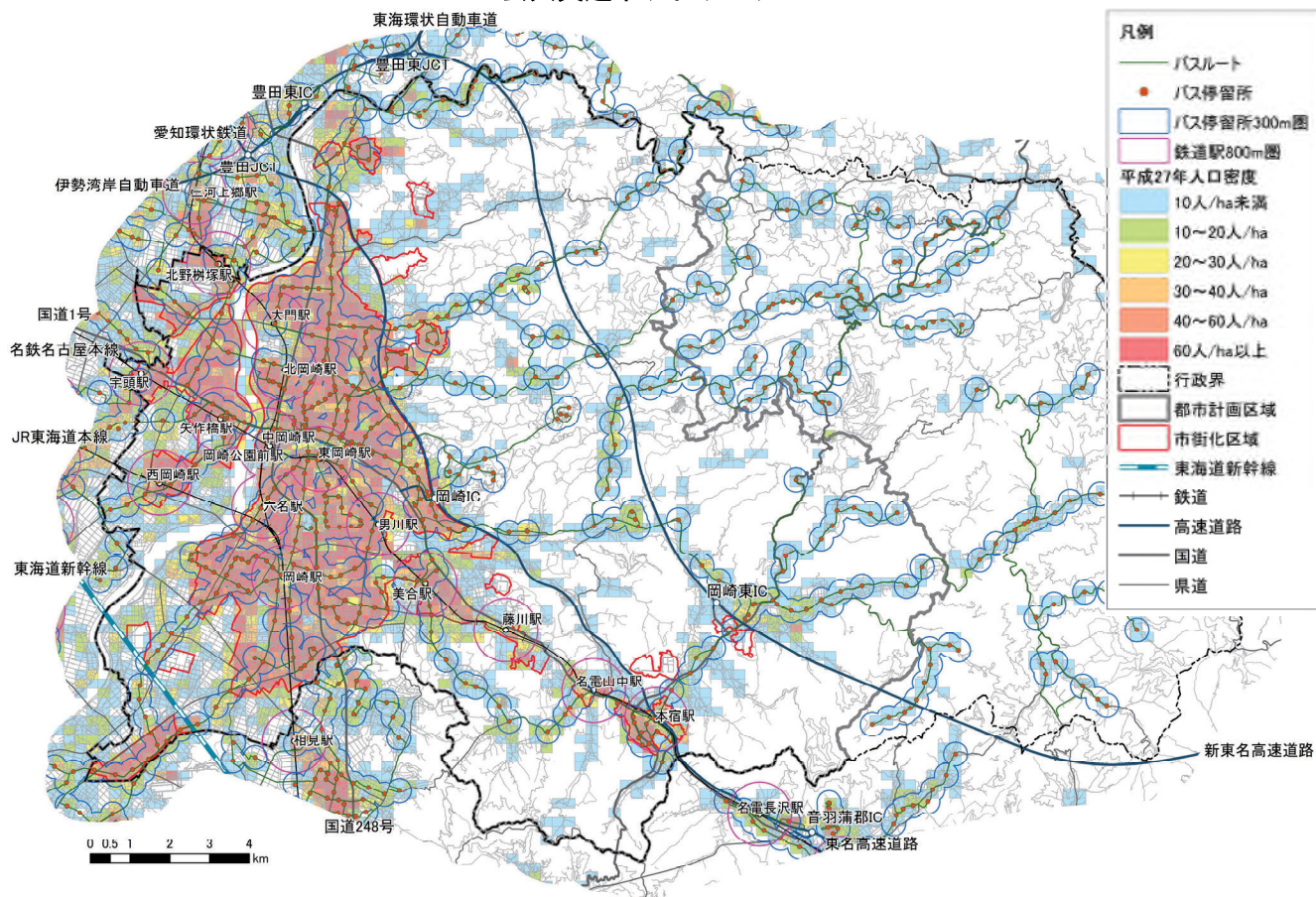
広域的な道路・公共交通に関しては、東名高速道路や新東名高速道路などによる広域的な都市間の連携が強化されています。また、リニア中央新幹線の開業が2027（令和9）年に予定されており、さらなるヒト・モノの交流促進が期待されます。

道路の混雑度※



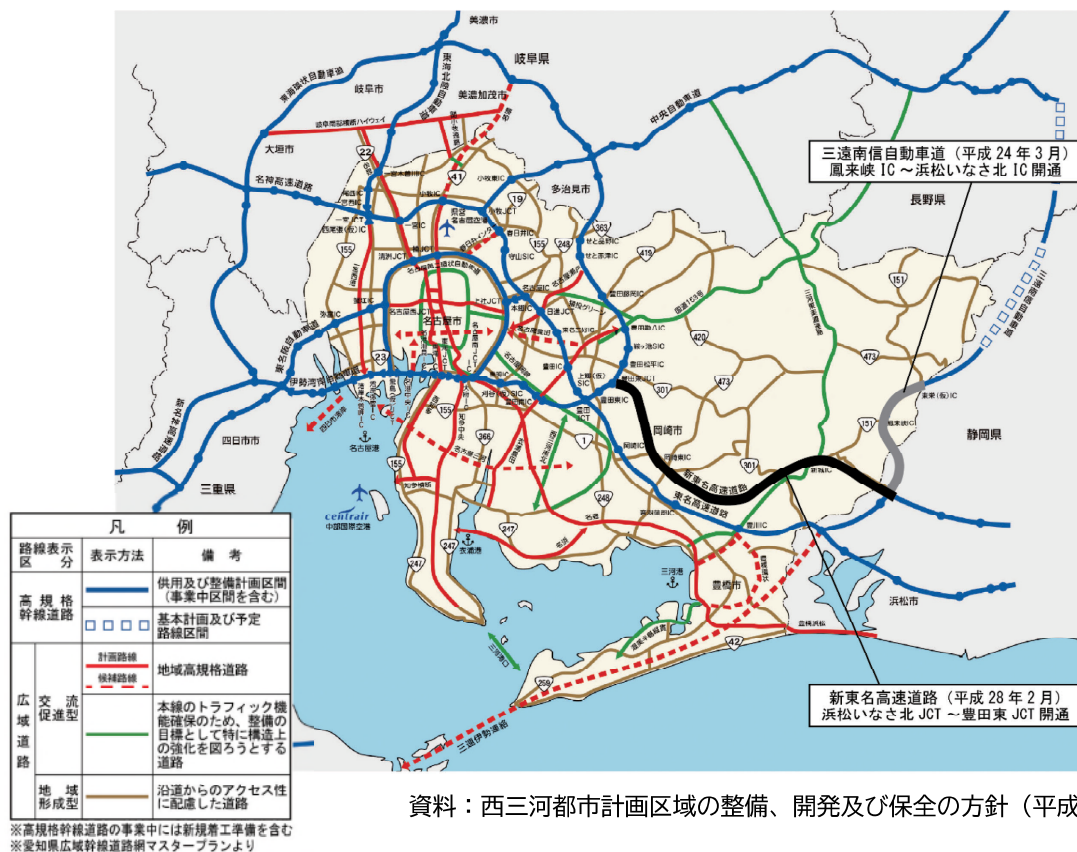


## 公共交通ネットワーク



資料：国土数値情報、岡崎市バスマップ（平成30年）

## 広域的なネットワーク



資料：西三河都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成 31 年）